

## 市民委員会からの素案の市原案への反映状況及び考え方に関する意見

## 基本計画に対する意見

## 1 編

## 施策 1 に対する意見

## 施策の展開について

(1) 地域コミュニティは「町会・自治会」といった地縁的な団体だけでなく、NPO などの市民活動団体も含めて素案も考えてきた。そのため、地域コミュニティの活動団体に「各市民活動団体」の表記を追加していただきたい。

【第2回】

(3) の原文が空白となっているが、素案の 1-3 の具体的提案に「町会・自治会や市民活動団体が自主的に活動できる場としての活動支援拠点を各地域に設置する」と具体的にあげているため、現状を改善していく、強化していくというような意味になるよう、もう少し言葉に膨らみをもたせるようにしていただきたい。【第2回】

## 施策 3 に対する意見

## 施策名について

施策名に「積極的な市政情報の発信と共有」と「共有」を追加すると、「発信」だけではなく「共有」していくという姿勢が分かるのではないか。【第2回】

## 施策の展開について

施策の展開に「情報の共有」に関する記述がみられないため、表記していただきたい。【第2回】

一連の流れの中で「共有」は情報発信の最後の段階にくるものであるため、表現の工夫を行えばよいのではないか。【第2回】

市民が 56 万人いると、財政が逼迫したなかで「選択と集中」で考えたうえで、優先順位として絞り込みをするときの「共有」が一番難しいと思う。そういうことも踏まえて、「共有」を使うことがなかなか難しいのだろう。【第2回】

## 施策 6 に対する意見

## 施策の展開について

(1) 原文にある、市民参画による「実現に至るプロセスを検証し」という重要なキーポイントが省略されているため、市民協働でそのマネジメントサイクルによる進行管理を行うという概念が欠落してしまっているように感じる。【第2回】

## その他に対する意見

### 素案 1-14 について

184 名の「八王子ゆめおり市民会議 2011」の総意で、この 1 - 14 の提案というものをさせていただいた。これは何かと言うと、まず、この市民会議のような会議を継続して市にお願いしたい。基本構想・基本計画に関われる、今ある協働の枠組みというものは、大事であるからお願いしたいというような大きな背景がある。「八王子ゆめおりプラン」を作る時に、やはり市民会議があった。今回、新たに市民会議が結成されたが、私たちは前の委員たちがどういう思いで素案を作ったか、どういう苦労があったかというような引き継ぎがうまくできなかった。そのため、次の 10 年につなぐために、よい方法はないのだろうかという発想から、この「検証委員会」というものの設置をお願いしている。【第 2 回】

1-14 のシートを作った背景には、実は 180 数名の市民委員の方が参加して、市民委員の問題意識として施策のレベルから、ものすごく具体的な細かいところから入ってきている方が実は多く、最終的に提言した内容がどうなるのか、分かるようなしくみがほしいといった意見も多かった。確かに、今の時点のレベルと少し合わないが、そういうものやっつけていける何かルールみたいなものがあってほしい。【第 2 回】

(上記意見に関連して) 今後は市民会議の育ちの部分でもあるという趣旨はよく理解するが、市の内部統制や市民を巻きこむという、市の中の機能の一つとして市民のコミュニティを活用していくという積極的な施策を、基本構想・基本計画の中で盛り込んでいくと、より一段進んだ考え方が盛り込まれるのではないかと。【第 2 回】

参考事例として、40 年ほど前であるが、23 区の教育委員の選考の例がある。簡単に言えば、決定責任は議会または市にある。この点は外せない。ただ、案を作るときには市民の多様な意見を取り入れなければいけないという理屈だった。現状では、やはりそういうことなのではないか。【第 2 回】

## 2 編

### 施策 10 に対する意見

#### めざす姿について

「地域の幅広い世代のさまざまな人々が交流し」とあるが、そのあとに「活発なボランティア活動等により」という具体的な表現を入れていただきたい。【第 2 回】

## 施策 11 に対する意見

### 施策の展開について

(1) のところで、原文に「グループホーム建設時の周辺住民の反対などを解消していく必要がある」とあるが、地域での理解を得るための啓蒙活動などについてどこかに入れていただきたい。【第2回】

## 3 編

## 施策 20 に対する意見

### 施策の展開について

(1) のところで、一番中核となって活躍が期待されていて、現に動いている「学校コーディネーター」を筆頭にしたい表現にしていきたい。【第3回】

(1) のところで、学校コーディネーターを記載するのであれば、学校コーディネーターや学校サポーターの役割が分からなければ、記載しても意味がないのではないかと。【第3回】

## 施策 21 に対する意見

### 施策の展開について

(2) のところで、素案で強調したかったのは、教員同士がチームを作ってチームティーチングしていく、複数担任制の導入、アシスタントティーチャーをつける、そのような教える体制の面というのを重要視していた。原案にも、教える側の体制の改良に言及する表現を入れていただきたい。【第3回】

(2) のところで、子育て、教育は非常に難しいという部分があり、先生が孤立しているということもあると思う。それをチームのような形で補っていくことはいいのではないかと。【第3回】

## 施策 25 に対する意見

### 施策の展開について

(3) のところで、「歴史博物館の創設による歴史文化に触れる機会の充実」というのが非常に重要なキーワードではないかと。それを受けて、左側の原案のところでは、例えば、「再発見できる場の整備と機能の充実」という、場と機能と両方並記していただくように表現したほうが、全く素案が無視された形にならないのではないかと。【第3回】

## 4 編

### 施策 29 に対する意見

#### めざす姿について

湧水というのは飲料水には適さないということで反映できなかった素案の内容とされているが、水もインフラの貴重なものになる。今は、簡単に浄化できるような器具もあるので、取り組む形にしていきたい。【第 4 回】

### 施策 31 に対する意見

#### めざす姿、施策の展開について

市民会議からの該当する提言は特にないという説明であったが、素案 4-14 のシートでは町の見回りの推進のような具体的提案が書かれており、「あるべき姿」には、市の治安の維持という言葉も載っている。その部分を汲んで書かれているという位置づけにしていきたい。【第 4 回】